

<p>緊急・重要 全教職員署名 東京都人事委員会要請書 賃金・労働条件改善を求める 9月中旬まで!!</p>	<h1>北多摩東ニュース</h1>	<p>2013 第10号</p>	<p>都教組北多摩東支部 電話(042)384・294 FAX(042)384・790 kita-higasi@mvc.biglobe.ne.jp</p>
--	-------------------	----------------------	---

原水爆禁止長崎世界大会 参加者の声

平和への思い強く

海外と全国から六五〇〇人が参加した原水禁世界大会開会総会で、安斉育郎さんはお話しました。「私たちは微力ではあるが無力ではない。」

世界は一步ずつ、核廃絶の実現へと進んでいます。ピーク時に世界に七万発以上あつた核兵器は、今五万発以上削減されました。パン・ギムン国連事務総長は、被爆七十五年にあたる二〇二〇年までに世界から核兵器をなくそうと呼びかけています。

だからこそ、世界で唯一の被爆国日本の姿勢が世界から注目されています。日本政府は、今年四月のNPT再検討会議準備会議で南アなどから提出された「核兵器の人的影響に関する共同声明」への参加を拒否し、世界や日本で核兵器廃絶を願う人々、そして多くの被爆者を失望させました。福島原発の事故は収束どころか深刻化し、それにも関わらずインドへの原発輸出を進めています。そして、平和憲法を変えようとしています。

田上長崎市長は、今年の平和宣言の中で、「日本政府に、被爆国としての原点に帰ること」を求めました。私は、今回の世界大会に参加し、世界の国々から、「日本の人々は、日本政府をど

う思っているのか」と問われているように感じました。

日本が自ら核の傘を容認し守ろうとしている核抑止という安全神話は、原発の安全神話と同じだと思います。

この状況から抜け出し、一歩踏み出すために、本当の歴史を学ぶことが大切です。同じ過ちを繰り返し、取り返しつかないことにならないように。

被爆者の平均年齢が七十八を迎えた今、被爆は終わった過去ではありません。私たちの平和のために、子どもたちをもう一度学び、伝えていきたいと思えます。


9名の代表団がみなさんのカンパに支えられて参加した世界大会、私たちが語り被爆者のお話も聞ける報告会にぜひおいでください。(和泉航)

参加無料
どなたでも
参加できます

**原水禁 2013 世界大会
長崎報告集会**
9月14日(土) 午後2時~4時半

- ・北多摩東教育会館(東小金井駅南口)
- ・被爆者の方から長崎での体験を聞く

被爆者の方から直接お話を聞くことができる貴重な機会です。職場で誘い合つてご参加下さい。



じえじえじえ

高校生が自衛隊で 防災訓練!

都立田無工業(西東京市)は、生徒を対象に7月26日、陸上自衛隊朝か駐屯地で防災訓練を実施しました。

都教委の強い指導でおこなわれたもう一方で、直前まで実施の事実すら都民に知らされませんでした。

25日の朝に新聞報道で知った「憲法を教育に生かす西東京の会」が同校校長に訓練の中止を緊急に申し入れました。会のメンバーは「自衛隊は軍事を基本とした世界で第5位の軍事費をもつ武装組織です。」「軍事訓練を行う組織に高校生を連れて行き訓練をおこなわせる。保護者の同意を得たとしても、教育に身を置く者として憲法上許されないと思う」と語りました。

現在、安倍政権は「国防軍」の創設、「集団的自衛権」を行使してアメリカとの共同で戦うことができる国にしようとしています。

「防災」という人のためのというイメージで生徒をとりこみ、いつの間にか「若者を自衛隊で鍛え直す」という形に変化しないとは限りません。